

⑤ 藤川隆男 著

『猫に紅茶を：生活に刻まれた
オーストラリアの歴史』

(大阪大学出版会)

日本の猫は魚を食べます。これは魚好きの日本人の食習慣が影響しているそうで、外国の人からみると、とても珍しいことのようにです。では、本書のタイトル、オーストラリアの猫は紅茶を飲むの？ いえいえ、いくら生活習慣が違っても、猫は紅茶を飲みません。実はこの表現のなかにオーストラリアの歴史が刻まれているのです。“tea”という言葉が、オーストラリアでは、紅茶にも食事にも、猫のえさにも使われます。しかしまた、ロンドンの下町言葉の面影を残すこの表現を、理解できないオーストラリア人もいます。イギリスの標準英語であるクィーンズ・イングリッシュを習得した中上流階級の人たちです。生活のなかに刻まれた歴史をひもときながら、オーストラリア社会の伝統・習慣そして現状を丁寧に教えてくれる、おすすめの一冊です。

271-Fuj (N.T.)

⑦ 杉山知之 著

『クール・ジャパン
世界が買いたがる日本』

(祥伝社)

「クール」=カッコいい。日本のオタク文化の象徴、マンガ、アニメ、ゲームなどが今や世界でクールなものとなり、これら異質な「文化」が日本のコンテンツビジネスとして大きな国際競争力を持っています。

著者は産学共同のデジタルハリウッド学校長の杉山氏。文化と技術の融合した「デジタルコンテンツ産業」の出現は、日本経済の新しい牽引力となるのではと論じ、そのための知的財産権(=知財)の管理や人材の育成など、日本の抱える問題点や課題を書いています。

「クール・ジャパン」の資産をどう活かすか。世界市場においては勿論ですが、最先端技術と独自の文化を併せ持つ日本の魅力を世界に伝えたいと本書を読んで多くの方が思うのでは？

007.3-Sug (Y.S.)



⑥ 池田千恵 著

『「朝4時起き」で、
すべてがうまく回りだす!』

(マガジンハウス)

早起きは三文の徳といいますが、実際早起きしている人はどれくらいいるでしょう? 夜型の人や、ぎりぎりまで寝ていたいという人にとっては耳の痛いことかもしれません。しかし本書の著者は、朝4時起きを習慣化したことで、今まで落ちこぼれていた自分の人生ががらりと変わったといいます。彼女が仕事も趣味も充実し、人生をより豊かにする為に実践してきた4時起きの方法、そしてその成果を参考に、自分に合うワーク・ライフ・バランスを考えてみてはいかがでしょうか。

159-Ike (Y.Y.)

⑧ アデライダ・ガルシア＝モラレス 著
野谷文昭、熊倉靖子 訳

『エル・スール』

(インスクリプト)

スペイン内戦後の人里離れた土地を背景に少女アドリアナの心を閉ざして逝った父親への想いで綴られた著者の自伝的要素の強い短編小説。

一人称で淡々と語られる青い炎のような沈黙と静寂と幻のように浮かび上がりまた闇に溶けて行く心象風景の美しさと恐ろしさ、神話性に魅了される作品です。

ビクトル・エリセ監督の同名映画(1983年)もぜひあわせてご覧下さい。

963-Gar (C.M.)